



# 福岡EU協会文化講演会「ローマKyogen一座来日公演」

9月19日(月祝)大濠公園能楽堂においてローマKyogen一座による来日公演を行いました。ローマKyogen一座は、昨年早稲田大学の関根勝教授がローマ大学に赴任した際、ゼミ生であった日本語・日本研究科のイタリア人学生6名とともに結成されました。「この公演は日本と西洋の古典喜劇を通した東西文化融合の実験である」と語られる関根先生は、イタリアルネッサンス期に誕生したコンメディア・デル・アルテと呼ばれる即興喜劇と、日本でほぼ同時期に成立した狂言に多くの共通点を見出され、これまでさまざまな作品を翻案・訳出して両国で公演してこられました。



本公演は、イタリアの若者が、はるばる日本へやってきて日本の古典喜劇である狂言を日本語で上演するという大変ユニークな試みとなり、「東西文化融合の結実」として完成度の高い作品となりました。



大濠能楽堂

## あらすじ

本公演では福岡EU協会の会員の皆様にも多数ご参加いただき、「酔っ払いの仕返し」「恋の骨折り」の2本を観劇し楽しんでいただきました。

## 「酔っ払いの仕返し」

原作:W.シェークスピア「十二夜」 翻案:関根勝



夜分遅く酔っ払って屋敷に戻った山城守と能登守は、納戸役の木下大膳に締め出されてしまう。屋敷女中のかえでも加わり、ふてくされて門前で酒盛り。木下大膳を一泡吹かせようと考えた3人は、大膳が心を寄せる鮎姫を使って、大恥をかかせる計画をたてる。

「歌舞伎者のかっこうをして私に会いに来てほしい」という恋文

をしたため、鮎姫からといって女中のかえでは大膳に手渡す。真に受けた木下大膳は、振袖はかまに赤い鉢巻をして鮎姫に近寄る。気が触れたと勘違いした鮎姫はおののいて山城守に助けを請う。山城守はこころざばかりに大膳を縛り上げ、からかって仕返しをする。ようやくはめられたことに気付いた大膳は怒って山城守を追い回す。



## 「恋の骨折り」

作:関根勝 典拠:W.シェークスピア「十二夜」



太郎冠者は、人使いが荒くけちで見栄っ張りな松山義家に仕えているが、「安くて高そうに見える贈り物をツケで買ってこい」と、鮎姫への贈り物を市場へ買いにやらされる。一方、鈴木大膳に仕える次郎冠者も、鮎姫への贈り物を買って来いと使いに出される。しかし、次郎冠者は鈴木大膳に心を寄せるあまり、小姓に変装して近づいた椿姫というお姫様であった。

その頃、市場をこの目で見たいと思う鮎姫は百姓に変装し市場を訪れていた。市場で繰り広げられるひと騒ぎとどんでん返しの後、次郎冠者こと椿姫はめでたく鈴木大膳と夫婦となり、鮎姫に言い寄った松山義家は「安くて高そうに見える想いなどありません」と無碍もなく振られる。太郎冠者に気前よさを見せれば鮎姫も気が変わるとアドバイスを受けた松山義家は、太郎冠者の給料を3倍にすることを約束するも、からかわれていることに気づき、怒って太郎冠者を追いかける。



## ★ ★ ★ ★ ローマKyogen一座との交流会

公演後には、狂言役者という大役を務めた6名と演出家の関根先生を交えて交流会を行いました。杉岡会長の挨拶に始まり、関根先生のお話では、一座の成り立ちやローマでのハードな稽古の様子など、舞台を作り上げる大変さをお話から



うかがい知ることができました。また日本語を流暢に話すローマっ子達ですが、「日本語はまだです。もっと勉強してうまくなりたい」

と謙遜していました。明るく人懐っこい彼らに協会会員との会話も弾み大変賑やかな交流会となりました。

最後の挨拶に、協会の大野二三四理事より

「日本の文化や言葉がおろそかになってきている中で、このように外国の若い方々が日本の伝統芸能に取り組んでいることは素晴らしいこと。ぜひ日本の若者にも見習ってほしい」との言葉で締め切られました。ご参加いただいた会員の皆様ありがとうございました。



## ★ ★ ★ ★ ライター公使福岡訪問

九州大学で開催された日本EU学会に参加するため、駐日欧州委員会代表部のミハエル・ライター公使が11月12日に福岡を訪れました。その合間をぬって西日本新聞社を訪問しインタビューを受けられました。(以下抜粋要約)

EU憲法については、「オランダとフランスで否決されたけれども、まずそれ以前に2億5千万人もこの憲法に賛成していることを忘れてはいけません。ただし今は省みる時期と捉えており、練り直しの必要がある」と答えられていました。またフランス暴動については、「移民を受け入れるには、社会との共存を考えた受け入れ態勢を整えることが大事である。住居だけを与えて終わりというやり方ではなく教育や雇用などの体制を整えて国が対応するべき問題である」とおっしゃっていました。そしてアジア共同体の可能性について、「アジア共同体は政治的に友好関係ができていないと難しいが、これから日本が他のアジア諸国と協力ができる分野— 環境・エネルギー・水の供給 —で協力体制を整えることで、チャンスが巡

ってくるのではないかと提言されました。最後に九州とEUとの関係について、「自動車産業はEUで日本が成功している分野の一つだが、一方で日本は観光大



西日本新聞社にて

国であり、ツーリズムで日本を十分アピールできると思う。以前レンタカーで九州を回ったが、九州には阿蘇や雲仙、そして温泉があり素晴らしい景色がある。自動車産業だけが日本を知る手段ではない」とアドバイスをされていました。短い滞在期間でしたが、駆け足で福岡を回られて帰京されました。

## ★ ★ ★ ★ EU各国在京大使館員九州視察

在京大使館員12名が11月10日～11日に福岡・大分を視察に訪れました。福岡では九州経済産業局や福岡ISTを訪問し、中国・韓国・ASEANとの経済交流や福岡における産学連携について意見交換をされました。夕刻には小宴が開かれ、(株)千鳥饅頭総本舗の原田社長より歓迎のご挨拶をいただき、EU協会から18名の参加を得てにぎやかな夕べとなりました。



ドン・キホーテ出版400周年記念事業

## 「ドン・キホーテ イン FUKUTSU」を開催

福岡EU協会名誉会員

福岡スペイン友好協会副会長 ダニエル・オロスコ



2005年11月5日～6日の2日間、福津市中央公民館ホールで、「ドン・キホーテ イン FUKUTSU」と称するセルバンテス著「ドン・キホーテ」の出版400周年を記念したイベントを開催しました。

企画段階から在福岡スペイン国名誉領事館の所在地である福津市をはじめ、多くの団体、企業、個人の方々からあたたかいご協力をいただきましたおかげで、とても充実した内容のプログラムを組むことができました。

## ①ドン・キホーテ出版400周年記念

## パネルディスカッション

コーディネーターに宇田懐さん(西日本新聞社記者)、パネラーには、川成洋さん(法政大学教授、スペイン現代史学会長、社会学博士)、堀越千秋さん(画家、ドン・キホーテの挿絵を制作)、本田誠二さん(神田外語大学スペイン語教授、翻訳家)、坂東省二さん(京都外国語大学イスパニア語科主任教授、京都セルバンテス懇話会会長)、ギジェルモ・キルクパトリックさん(スペイン大使館、文化担当参事官)、オルガ・ガルシアさん(スペイン国立図書館)という、まさにドン・キホーテを語り尽くすにふさわしい豪華な出演者を迎え、「私のスペインとドン・キホーテ」というテーマでのパネルディスカッションを行いました。途中には堀越さんによるカンテの披露もあり、会場は大いに盛り上がりました。

## ②吉川二郎スペインギターコンサート

スペインギタリストの吉川二郎さん、野口久子さんによるギター二重奏の繊細な音色に、会場では拍手が鳴り止みませんでした。

## ③堀越千秋ドン・キホーテ原画展

堀越画伯の最新作「ドン・キホーテ・デ・千秋」の原画展です。即席サイン会もあり、用意しておいた本はすぐに売り切れました。

## ④スペイン映画祭

「キャロルの初恋」と「蝶の舌」という、いずれもスペインを代表する名作2本を上映しました。

## ⑤スペインブックフェア

パネルディスカッション出演者の著書を中心としたスペイン関連図書の展示即売会を行いました。多くの出版社のご協力により、100種類を超える本やCDを並べることができました。

## ⑥お楽しみ抽選会

このイベントの直前に閉幕した愛知万博スペインパビリオンの絶大なるご協力により実現した企画です。同パビリオンに展示されていたドン・キホーテの人形や絵本、CDなどを、当選者約300人にプレゼントすることができました。

このように、まさに「ドン・キホーテ」盛りだくさんのイベントでしたが、関係各位のご協力により、すべて入場無料で開催することができました。おかげさまで、会場には2日間で延べ700人の方々が足を運んでくださいましたが、皆さんスペインを、そしてドン・キホーテを存分に堪能していただけたのではないのでしょうか。

私自身この2日間のイベントに携わって、中世ヨーロッパの騎士道に憧れるちょっとおちゃめな騎士ドン・キホーテが、現代にも通じる多くのテーマ、エピソードをもって私たちに400年の彼方から語りかけてくれたように感じました。そして、あらためて福岡とスペイン更にはEU諸国とのますますの友好交流発展に向け、私たちの協会が少しでも役立つことができればと願う次第です。





# Ode to Joy

## グローバル・ウィング2005

～第8回「福岡県青年の翼」～  
ドイツ・イギリスコースに参加して

西日本新聞印刷 営業部  
樋口 和明



福岡県が主催する青年の翼事業で「欧州視察団」として、ドイツ・イギリスを訪問しました。「環境」「福祉」「教育」の三テーマに分かれての研修ですが、私は教育班で生活2班リーダーとして参加させていただきました。岡田団長（福岡県生活労働部長）を柱に総勢74名が参加し、11月12日から9日間の日程で、テーマごとに視察が行われました。

最初の2日間はドイツのマル市にてホームステイをし、その後デュッセルドルフ日本人学校で、ドイツの教育概要について講義を受け、国立大学の授業料が無料であること、ドイツでは兵役があるために家庭を持っている学生が多いことなどの理由から、学生の高齢化が進んでいることを教わりました。他にもマイスター制度など、日本の教育制度とはかなりの違いがあることに驚きました。



フライエ・ヴァルドルフスクール・シュタイナー学校にて

実際にフライエ・ヴァルドルフスクール・シュタイナー学校を訪問し、子供の人格の自由な感性と発達を重要視した教育が行われているところを見学してきました。学校の建物から部屋の内装まで、木をふんだんに使用し、天井も六角形など学校全体がアートの印象に残りました。照明も蛍光灯は使用せず、やさしい光に包まれ子供たちが安心

できる環境を作っているように感じた。

できる環境を作っているように感じた。

シュタイナー学校では数週間連続して同じ科目を行うエポック授業や、オイリュトミー等の芸術体験授業などを行っており、日本にはありません。またテスト



シュタイナー学校の子供達

での評価ではなく、担当教科の先生による、手書きメッセージを学年の終わりに受け取るようになるそうです。これはシュタイナーが、一年生から八年生まで同じ先生の担当持ち上がり制度だからできることかもしれません。近い将来、日本にもシュタイナー教育のような、芸術と物作りを重要視した学校の設立ができればと強く感じました。

その後、ドイツ国際平和村でレクチャーを受け、老人ホームにてボランティアをしました。日本の歌で交流し、テーブルセッティングや厨房でのボランティアを行いました。日本の老人ホームと違い、入所されている方々がいきいきしており、明るい雰囲気でした。とても優雅な時間を過ごされているように感じました。

そして、ドイツからイギリスのロンドンへと移動し、クロイドン区教育委員会にて、行政の役割などを聞き、三つの幼児教育現場を訪問させていただきました。日本と違う点は、父親参観など特別なイベントはなく、常に保育士と両親が連携を取り、日ごろから、親の特技を子供たちの前で披露させていることでした。また、ひとりの人間としての尊厳を大切に、異なる宗教・文化に対しても適切に対応されているようでした。



クロイドン区教育委員会にて

今回のグローバル・ウィングにより、欧州諸国とのつながりができ、これからもお互いの文化を尊重しながら交流し、今後の活動に生かしていければ幸いです。

## 閑談余談

2006年ワールドカップが来年6月に開幕します。日本の対戦国も決定し気分が一気に盛り上がってきたところです。ところでヨーロッパのサッカーと聞いて思い浮かべるのは、豪華スター揃いのスペインリアルマドリッドや、ハンサム揃いのイタリアセリエA、またはイギリスのプレミアリーグといったところでしょうか。しかし次回W杯開催国ドイツのブンデスリーガ(\*1)を思いつく人はなかなか少ないのではないのでしょうか。

ドイツサッカーにはスター選手がいない、強くない等々いわれていますがそんなことはありません。リアルマドリッドには多少ひけを取るものの、ドイツのバイエルンミュンヘンはスター揃いのチームで有名です。ミッドフィルダーのバラックやゴールキーパーのカーンは日本でもご存知の方も多いでしょう。

そして世界に誇る強さ。ドイツ代表は、過去に3度のワールドカップ優勝・準優勝、3度の欧州選手権優勝を経験しています。

またバイエルンミュンヘンはチャンピオンズリーグ(\*2)優勝経験があり、バイヤーレバークーゼンは同じく準優勝しています。2006年のワールドカップは、ドイツ代表が優勝してくれるだろうと今から楽しみにしています。

ぜひ一度ドイツサッカーを見てください。余談ですがブンデスリーガもハンサム揃いです。ドイツサッカーのサイトを紹介しますので、ご興味のある方はご覧になってください。

(いすゞ)

ドイツサッカー専門誌「キッカー」のサイト(ドイツ語)

<http://www.kicker.de/>

UEFA(日本語あり)

<http://jp.uefa.com/>

ドイツ外務省によるサッカーのサイト(日本語あり)

<http://www.socceringermany.info/de/index.html>

(\*1)ドイツの国内リーグ、ブンデスリーガは2部制で各18チームで構成。  
(\*2)ヨーロッパNo.1のクラブを決定する。出場権はヨーロッパ各国リーグの優勝チームと、それに次ぐ成績を収めたチームに与えられる。

## Event Information ● 福岡 E U 協会 共催事業

人気のソリストを迎えて  
ドイツ・ロイトリンゲンを代表するオーケストラがついに来日!

# ヴェルテンベルク・ フィルハーモニー管弦楽団



ヴァイオリン／千俣 真理子

指揮／飯森 範親

2006年2月13日(月) 19:00開演  
福岡シンフォニーホール (アクロス福岡1階)  
S席/8,000円 A席/6,000円 B席/4,000円

\* EU協会会員の方は上記料金より一割引でご購入いただけます。

\* チケットのお求めは当協会事務局<(財)福岡県国際交流センター内>までご連絡ください。

## ● 新規会員を募集しています

福岡 E U 協会では、活動を活発にするために会員拡大に努めて参ります。E U やヨーロッパに関心をお持ちの企業・団体や個人の方々、ヨーロッパ滞在経験をお持ちの方などご紹介いただきますようお願いいたします。

### 福岡 E U 協会会則 (抜粋)

#### (目 的)

協会は、福岡県と E U (欧州連合) の相互理解を深め、友好を促進することにより、両者間の経済、文化等の交流に寄与することを目的とする。

#### (事 業)

- 協会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。
- (1) 講演会、セミナーの開催等相互理解を深める事業
  - (2) 使節団の相互訪問等人的・文化的交流を促進する事業
  - (3) 展示会、見本市の開催・参加等経済的交流を促進する事業
  - (4) E U 及び福岡に関する情報の相互交換事業
  - (5) その他前条の目的を達成するために必要な事業

#### (会 員)

協会の会員は、法人会員、個人会員及び名誉会員とする。

#### (会 費)

- 会員は次の年会費を納入する。
- 法人会員は 1 口 2 万円 (1 口以上)
  - 個人会員は 1 口 3 千円 (1 口以上)
  - 名誉会員は会費を免除するものとする。

#### (事 務 局)

- 1 協会の事業を行うために、(財)福岡県国際交流センター内に事務局を置く。
- 2 事務局は九州電力(株)と(財)福岡県国際交流センターが共同して担当する。
- 3 事務局長は(財)福岡県国際交流センター国際部長をもって充て、事業の実施運営を総括する。

## 事務局より

冬将軍の到来で、福岡の街は寒風吹き荒れています。当事務所にいつの間にか住み着いてしまったアリの群れも植木鉢の地中深くにもぐってしまい最近では一匹も見当たらなくなりました。

あつというまの一年でしたが、皆様のご協力により、事業を無事に開催することができました。心より感謝申し上げます。暮れのせわしい季節ですが、皆様どうぞ暖かくしてよいお年をお迎えください。

## Ode to Joy

E U、ヨーロッパ等に関する最新情報を掲載します。会員の皆様はもちろん、多くの幅広い皆様からの寄稿をお願いいたします。

## 会員コーナー

会員の皆様の活動、近況などを掲載します。会員の皆様の積極的な寄稿をお待ちしています。

## 閑談余談

E U、ヨーロッパに関するこぼれ話やマメ知識などを掲載します。会員の皆様からのちょっとおもしろい話をお待ちしています。

\*\*\*

会員の皆様への情報提供また情報交換の場として、内容を充実させていきたいと思っております。新しい情報、経験等ございましたら、ぜひお寄せください。

また、協会の活動についてご意見、ご要望がございましたら、遠慮なく事務局までご連絡ください。



2005年  
日・EU市民交流年

## 福岡 E U 協会についてのお問い合わせ

### ● 事務局

〒810-0001 福岡市中央区天神 1-1-1 アクロス福岡8F  
(財)福岡県国際交流センター(内)  
TEL: 092-725-9204 FAX: 092-725-9205  
E-mail: general@kokusaihiroba.or.jp  
担 当: 企画班 小西、佐野、永本

〒810-8720 福岡市中央区渡辺通 2-1-82 九州電力株式会社(内)  
TEL: 092-726-1593 FAX: 092-711-0357  
担 当: 総務部総務・地域共生グループ 中川、辻、田代

